

逆境の賛美

シリーズ・パウロ 第19回
使徒言行録16章16～40節

フィリピでの思わぬ宣教妨害

- 神の導きに従ってフィリピにやって来た
 - 二度も聖霊によって道をふさがれ、幻を見て
- 「祈りの場」に宣教に行ったパウロ
- パウロたちについてきた女占い師
 - 彼女はパウロが神の僕で救いの道を宣べ伝えている、と言いふらした
- パウロはイエス・キリストの名によって占いの霊を追い出した

不当な投獄

- 金儲けの道具を失った女奴隷の主人は、
嘘をついてパウロらを訴えた
- 群衆もおもしろ半分に彼らを責め立てた
- パウロらはひどい仕打ちを受け投獄された
 - 衣服をはぎ取られた
 - 何度もむち打たれた
 - 厳重な監視の元、一番奥の牢に入れられた。
 - 木の足枷がはめられた。

獄中の賛美

- 牢の中でパウロとシラスは賛美の歌を歌い、神に祈っていた
 - どんな賛美、どんな祈りだったのだろうか？
- ほかの囚人たちは彼らの声を聞いていた
 - 二人の様子が特別だったから
- 突然地震が起こり、牢の扉が全部開き、鎖もすべて外れた

自殺しようとした看守

- 看守は囚人たちが逃げてしまったと思い込み、自殺しようとした
 - 扉は開き、静まりかえっていたから
- 囚人は誰一人逃げなかった
 - 不思議な出来事に驚き動けなかったのか？
- パウロは「自害してはいけない」と叫んだ

救われた看守とその家族

- 看守はパウロの前に震えながらひれ伏した
 - 看守の心を地震が襲った
- 「救われるためにはどうすべきでしょうか。」
- 「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」
- 看守とその家族は福音を聞いて信じ、その夜の内に洗礼受けた

逆境の時にこそ起こる神の業

- 逆境は罪の報いではなく恵みである
 - 悪いことが起こっても心配しない
 - 私たちに都合が悪いことが神様に都合が悪いとは限らない
- 祈るしかなくなった時、神の業が始まる
- 神の目的は、私たちの目的とは違う
 - 看守とその家族が救われるために、パウロはフィリピに導かれ投獄された

逆境の賛美

- 神は賛美に住まわれる
 - 「あなたは聖であられ、イスラエルの賛美を住まいとしておられます。」＜詩編22:3新改訳＞
- 逆境の時にこそ賛美しよう！
 - 「彼は不信仰に陥って神の約束を疑うようなこととはなく、むしろ信仰によって強められ、神を賛美しました。」＜ロマ4:20＞

主よ感謝します

主よ感謝します 今のこの時を
試みの中にも 主の平安がある
何が私を主から話すのか
悩み、苦しみ、飢えか、剣か
なにものも私を離すものはない
主の深い愛から離すものはない